

## 大分市立大在小学校 学力向上プラン1（8月）

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>H27年度の県の学力定着状況調査や全国学力・学習状況調査より            (国語) 「物語・説明文の読み取り」や「言語」「文章を書く」に課題。            (算数) 「計算力」に課題。</li> <li>H28年度の県の学力定着状況調査より            (国語) 漢字の「読み」はできていたが「書く」が定着しておらず、また「物語や説明文の読み取り」に課題。</li> <li>H28年度の県の学力定着状況調査より            (国語) 「物語・説明文の読み取り」や「聞く」に課題。            (算数) 身近な物の面積を推察するなど量感を伴う理解に課題。地図上の場所の面積を求める問題の正答率も低い。</li> <li>全校の単元テストでは国語の「言語」と「書く」算数の「思考力」に課題が見られる学年が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度までの課題としては、「自分で計画を立てて勉強している」や「授業の予習・復習をする」児童の割合が低い。また、自分の考えを説明するのを苦手としている。テレビやゲームに費やす時間は二極化しており、ほとんどないと答えた児童の割合が高い半面、3時間以上と極端に多い児童の割合も高いという傾向にある。また、自分の考えを書いたり発表したりするのが難しいと感じている児童が多い。</li> <li>家庭学習については個人差が大きく、また「家でほとんど勉強しない」児童の割合が高い。「勉強時間の目安を決めている」「予習や復習をする」「辞典を引いて調べる」と答えた児童の割合が低く、「分からないままのことが多い」という児童の割合が高い。しかし一方で「テストのやり直し」や「ノートの取り方の工夫」をしている児童も多くいる。</li> </ul>
指導の状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>忘れやすい漢字や計算等については、定期的に復習をしスキルタイムにおいて学年で共通したプリント学習等を中心に基礎・基本の定着を図っている。</li> <li>全校で共通したテスト教材を扱うようにして学校全体の傾向や学力面での課題などを客観的に把握できるようにしている。</li> <li>学力向上担当の教員が学期末に学年ごとにまとめた全校のテスト結果の傾向を分析して、職員で共通理解をした上で今後の対策を考えるよう短期のPDCAサイクルを確立している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてや課題、まとめや振り返りを意識した問題解決的な授業を展開することで「わかりやすく楽しい授業」を心がけている。ただ取組状況にはまだ個人差があり、今後も引き続き、取り組んでいく。</li> <li>家庭学習の定着を図るために、担任が毎日チェックをして、休み時間にやり直しをさせたり、家庭への連絡をしたりして、学校と家庭が連携して取り組むよう心がけている。</li> <li>判断力・表現力を育むためにペアやグループでの話し合い活動に取り組んでいる。</li> </ul>
今後目指す児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と、さらに学力を伸ばす児童</li> </ul> <p>国語、算数等の単元評価テストの平均を80点以上にし、40点以下を5%以下にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを持ち、表現できる児童</li> </ul> <p>「授業が楽しくわかりやすい」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>
今後の具体的な取組	<p>①授業改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの話し合い活動に取り組む。</li> <li>「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置づけた授業を完全実施する。</li> <li>量感を育てるため、算数において体験的な学習活動を多く取り入れる。</li> <li>複数の情報を集めて判断したり説明したりする活動に取り組む。</li> </ul> <p>②その他の学習指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に3回、朝の15分間をスキルタイムとして位置づけ、各学年の児童の実態に合ったプリントを準備して取り組み、学期ごとに成果と課題を検証する。</li> <li>小中一貫教育に取り組み、大在西小学校や大在中学校と共通した取組をする。</li> <li>新聞を読むことや読書の推奨をして学期ごとに目標冊数をクリアした児童を全校に紹介して多読賞（1学期・ホップ賞、2学期・ステップ賞、3学期・ジャンプ賞）をわたす。</li> <li>高学年は図書館にある子ども新聞のコラムについての感想を週に2回程度、家庭学習やスキルタイムを中心取り組ませる。</li> <li>200字原稿用紙を常時用意しておき、決まった量の作文や条件作文に取り組ませる。</li> </ul> <p>③学習状況改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の仕方や話の聴き方、姿勢などの学習規律を確立する。</li> <li>準備、着席、あいさつ、返事、姿勢などの「学習のきまり」や学習時にふさわしい声の大きさを示した「声のものさし」、学習中の発言のしかたの基本形を示した「発表のしかた」などを教室に掲示をして全校で統一した取組を進める。</li> </ul>	
家庭・地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の定着をめざし「家庭学習の手引き」をPTAの懇談会で説明し家庭に配布。</li> <li>各家庭の状況に応じ、宿題をしたかどうかの声かけなどの実施。</li> <li>読み聞かせボランティア「はらぺこあおむし」による読み聞かせの継続。</li> <li>教育懇話会、公民館、婦人会、舞子組の方々を講師とした体験学習の実施・継続。</li> </ul>	